「三股プライド」～心と形を整える～

令和４年７月１３日（水）　ＮＯ１２　文責　木下　文秋

他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる

私が３年生の担任をした時の話です。その男子生徒は、宿題を忘れたり提出物が遅かったりすることが多く、日記にも「今日は疲れた」とか「今日は雨が降った」くらいのことしか書いてこないやる気の見られない生徒でした。入試の時期に入り、受験票の下書きの練習をするために、受験票のコピーに志望校と志望学科を書いて翌日提出することになっていましたが、彼は白紙のまま提出してきました。「行きたい高校がないし、どうして高校に行くのか分からない」と彼は言いました。私は彼に高校に進学する意味を「自分の将来に専門的な知識や技術を生かすため」だと諭しました。すると、しばらくしてその生徒は「今の成績で行ける所なら行ってもいい」と言って来たので、これはチャンスだと思い彼のことをもっと理解することにしました。話をしようとすると嫌がりますが、それでも話をするうちに「自分は何もできないし、ダメな人間だから高校に行く意味がない」そんな話をしてきます。恐らく彼のように自己肯定感の低い生徒はたくさんいると思います。むしろ「自分は天才だ」と思う人がいるでしょうか。私だって自分のことをダメな人間だと思うことが多々あります。なぜなら、自分の醜さや弱さを知っているからです。他人には決して見せたくない一面をみんな持っているはずです。しかし、考え方や努力次第で、自分自身を変えることができます。人として大事なことは、とりあえず「行動してみる」「やってみる」ことで、それがうまくいくかどうかは関係ないように思います。そうでなければ失敗すら生まれません。話は戻り、彼は入試を真剣に考えるようになり、昼休みに職員室前で勉強をする姿がありました。そして見事、都城農業高校に進学し、農業高校の実習商品であるヨーグルトやイチゴジャムの販売に来てくれました。「高校は楽しいか」と尋ねると、とてもいい笑顔を返してくれました。彼は自分の未来を変えることに成功しました。３年生はこれからオープンスクールや三者面談が計画されます。自分に自信がない人もいることでしょう。しかし、可能性のない人間なんてどこにも存在しません。他人と過去は変えられませんが、自分と未来は変えることができるのです。